

第13期 第4回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】	令和5年(2023年)2月16日(木)10時00分から11時30分まで
【場 所】	豊中市立中央公民館 1階 集会場
【出席委員】	渡邊委員 花嶋委員 <small>こじま</small> 小島委員 井原委員 小西委員 <small>おじま</small> 小島委員 下村委員 高島委員 中澤委員 吉田委員 高井委員 榊原委員 米田委員 石原委員 重長委員 (15名中15名出席：有効に成立) ___は、WEB参加
【傍聴者】	1名
【事務局】	糸井、道端、立谷、溝口、小坂、吉村、片羽、永富、山口、山本、渡邊、井田、中井、内田、西岡、池田、中村、藤田
【オブザーバ】	齋藤（アルパック）、飯野（豊中市伊丹市クリーンランド）
【配付資料】	<ul style="list-style-type: none"> ・第13期第4回豊中市廃棄物減量等推進審議会（WEB会議）議事次第 ・第13期第4回豊中市廃棄物減量等推進審議会タイムテーブル ・資料1-1 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画改定最終案（総論・第1部） ・資料1-2 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画改定最終案（第2部） ・資料1-3 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画改定最終案（第3部・資料編） ・資料1-4 第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画改定（素案）に関する意見募集の結果について ・資料1-5 第4次豊中市ごみ減量計画改定最終案 ・資料1-6 指標の設定について ・資料1-7 答申（案） ・資料2 令和3年度事業等報告書確定版 ・資料3 粗大ごみ処理手数料改定額報告資料

1. 開会宣言

本審議会は情報公開条例に基づき、公開の対象となる。本日は、1名の方が傍聴されている。

また、委員15名の内、15名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第6条により本日の会議は有効に成立している。

2. 議事録署名委員について

下村委員と米田委員に担当していただく。よろしく願います。

審議案件1 「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」の中間見直しについて

○会長

それでは、「第4次豊中市一般廃棄物処理基本計画」及び「第4次豊中市ごみ減量計画」の中間見直しについて事務局から説明をお願いします。

○事務局

＜資料 1-1、資料 1-2、資料 1-3、資料 1-4、資料 1-5、資料 1-6、資料 1-7 に沿って説明＞

○会長

資料 1-4 では市民意見に対する市の考え方が示され、またごみ減量計画の指標について、資料 1-6 で新たに追加された指標とこれまでのものから除かれた指標の説明があった。

まず資料 1-4 の 6 番目の意見では、リサイクル率を参考指標とすることについて、その理由を「市の考え方」に記載している。再生資源の量が減ったことでリサイクル率も下がっている、ということの原因として、「紙離れによる紙類の減少」とあるが、表現としてどうか。今回は中間見直しなので、（市の考え方に示されているとおり）基本施策の「質の高いリサイクル」という表現を変える必要はないかと思う。

この意見に対する市の考え方は、重要なところだと考えるが、何かご意見はあるか。

○委員

デジタル化の推進による紙類の減少をさしていると思うので、その趣旨で表現を変更してはどうか。

○会長

それでは、「デジタル化に伴う紙離れ」といった表現に改めていただきたい。

次に資料 1-6「ごみ減量計画の指標」についてご意見があればお願いします。

○委員

よくリサイクル業者から電話があり、「市から委託されているリサイクル業者」を騙って電話をかけてくる事業者も多い。市が提携しているのは今回記載があるリネットジャパンやジモティーなど、限られた事業者だけか。

○委員

不要な家電の無料引取りなどを行っている業者があるが、これは違反である。ごみの回収については、許可業者に依頼するなどしかるべき方法で処理すべきであり、今発言にあったような業者が市から委託されたというようなケースは一切ないと思う。我々の業界としてそのようなことを発信することもない。そのような電話などは一切無視したほうがよい。

○事務局

ジモティー、おいくら、リネットジャパンなど、協定を締結していたとしても市民に直接電話をかけてくることはないため、そういった電話があったときは、対応しないようにしていただきたい。

○会長

リネットジャパンとの提携はいつからか。

○事務局

令和 4 年 2 月からである。

○会長

個人事業主でパソコンを使われているところなどは、リネットジャパンを利用できないと思うが、一般市民か事業者かどうかの判断はどのように行っているのか。

○事務局

リネットジャパンからの報告では、パソコンや自作パソコンの部品などが対象で、宅配業者が回収する際に個人の名前であることを確認しており、原則一般市民からの回収である。

○委員

リサイクルについて、一般的に、高品位なリサイクル向けの不用品はよいが、それ以外の不用品がどう処理されているか私たちもわからない。安いから何でもかんでも一括でお願いするということは、避けた方がよい。

○委員

私の家にも、リサイクル業者を名乗る方からよく電話がかかってくる。「古い靴があるか」とか、それを「どう処理しているか」と聞いてくる。何らかの理由をつけて家に来て、めばしいものを持っていくのが狙いのようだ。

○委員

自分のところにも色々な名前や肩書を騙る得体の知れない業者から多くの電話やショートメールが来たりする。色々なところがあるので、不安がある場合は市や我々のような登録されている許可業者に相談された方がよいと思う。

○会長

複数の委員から不用品買取りの勧誘等に関する話があったが、このような話題を「とよなか環境 TV」で取り上げることはできないか。こういった情報提供も市民にとっては役に立つのではないかと思う。

それに関連して、「とよなか環境 TV」は実は市職員が作成している。動画作成は技能が必要だが、こういった技能を持った職員に対する十分な対価の支払いや無理をさせない職場環境などにより、有能な職員を大切にしてほしい。

○委員

動画配信は興味のある人には良いと思うが、複数人でみられるように DVD などの貸し出しもお願いしたい。

○委員

先日、動画を地域で流したが、興味をもってご覧いただいた。私は廃棄物減量等推進員であるが、推進員の活動としてこういった動画についても活用し、広めていきたい。

○会長

今出たのは、パブリックビューイングをして、お互いが情報交換をしながら内容を理解することの意義についての話である。イベントの形式も時代によって変わり、今はこういった動画の上映会なども効果的かと思う。

○事務局

大きなイベント等で上映などを考えられることがあれば、ご相談いただきたい。また、出前講座等での対応もしていきたい。

○委員

資料 1-5 のごみ減量計画で、「コロナ感染症拡大防止」、「コロナ感染症防止」などと「拡大」の文言があったりなかったりしているので、意図がなければ表現を統一してはどうか。また、15 ページまでは「取組み例」となっているが、それ以降「み」が抜けている。また 24 ページの「在宅医療廃棄物等への対応の強化」の「の」に下線が入っているので削除してはどうか。

○事務局

ご指摘の点について、修正する。

○会長

リモート参加の委員の方々のご意見等いかがか。

○委員

資料 1-6 の指標設定における「食品廃棄物リサイクル等の推進」で、事業者用生ごみ処理機導入補助金事業補助件数 5 件というのが目標値となっており、ありがたく感じている。導入によってどの程度ごみの廃棄コストが減ったか、その成果を実績報告などで後追いし、さらに次の年度で導入する企業の後押しになるようにしていただくとよいと思った。ゆくゆくはその成果を指標にしていくことも検討いただきたい。

また「とよなか環境 TV」について、「環境学習・教育の促進」で「年間動画配信数」を指標にしているのは多様な情報を発信するという観点でよいと思うが、「廃棄物の適正処理の推進」にあるモバイルバッテリーなどの危険物に対する市民啓発でも、配信回数だけが指標となっている。以前から審議会でも課題になっていたところであり、重要な話であるため、こちらについては視聴回数を指標にしてもよいのではないか。

○事務局

補助を受けた事業所には、5 年間毎月報告を頂くことを考えており、その成果を把握できるようにする予定である。

○委員

ぜひ成果を後追いし、それを情報発信することで食品リサイクルに取り組む事業者の拡大に活用いただきたい。

○事務局

視聴回数については、過去動画の再生もあり、視聴回数の確認が難しいため配信回数とした。モバイルバッテリーなどの危険物の適正処理については、この審議会でも多くのご意見をいただいたところであり、その他の媒体でもしっかり啓発を行っていきたい。

○委員

実質的に市民や事業者に伝わることが重要と考えて提案したものであるが、視聴回数の整理が難しいということであればやむを得ないかと思う。このテーマについては、より積極的な情報発信を行ってほしい。

○委員

事業系生ごみ処理機については素晴らしい取組みだと感じた。指標の設定について、新しい取組みとしてプラスチックごみの削減があるが、給水スポットの取組みが良いと思うので、ぜひ周知してもらいたい。プラスチックごみに特化したような啓発、イベントなどがあってもよいと思う。

○事務局

プラスチックごみの削減については我々も重視しており、市民に伝わるような啓発を行ってきたい。

○会長

それでは中間見直しについての議論は以上とし、資料 1-7 の答申を市長に提出する。改定した計画に基づき、令和 9 年度に向けて取組みを進めていただくようお願いする。

続けて次の案件の説明を事務局からお願いしたい。

2. 第 4 次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○事務局

<資料 2 に沿って説明>

○会長

今説明のあった第 3 章の市民意見は、どれも大切な意見である。それを含め、進行管理について意見があればお願いする。

○委員

平成 24 年 4 月に、家庭系ごみの分別区分を拡大した際、リサイクル率が向上した。さらに分別区分を拡大すればリサイクル率向上につながるのではないかと。

やみくもに品目を増やすのではなく、ポイントを絞って拡大することはできないか。例えば、リチウムイオン電池などの充電電池について、改めて注意喚起をし、回収後もより高度なリサイクルにつながるように、産学官での開発などにも取り組んでいただけるとよいのではないかとと思う。

○事務局

現在、充電式電池を含めた小型家電を別回収する取組みについて検討を行っているところである。近々また皆様にも報告できると思うので、その時はまた議論いただきたい。

電池については技術革新が進んでおり、現時点ではロータリーキルンで蒸し焼きを行うようなリサイクルが行われ、純然たるリチウムやニッケルの回収が可能となっている。そういったリサイクルルートでの処理も含めて報告できると考えている。

○会長

リチウムイオンバッテリーのリサイクルについては、確かにできたらいいが、簡単ではないということはお伝えしておきたい。また、リチウムイオンバッテリーは安全保障の領域でもあり、国際的にもしのぎを削っている分野かと思う。

○委員

リチウムイオンバッテリーのようなものは、家庭から排出する機会や量が少なく、小さいから燃やすごみなどに混ぜて捨ててしまう。分別方法は難しく、丁寧な説明が必要で、特に高齢者にはわかりやすくしないと伝わらない。

拠点回収も近くにはなかったり、わざわざ持っていかないといけなかったりという点でハードルが高い。公共施設などの拠点を増やしたり、地域や期間を限定した臨時的な拠点回収を実施したりすることも有効だと思うので、検討いただきたい。

○事務局

分別方法の分かりにくさは課題として認識しており、そのあたりも考慮に入れて、例えば電池などの様々な種類があるものについても「電池」として一括りにするなど、わかりやすい分別で回収ができるよう考えている。

○委員

ごみ減量計画の進捗状況で、事業系ごみが減っているというのは、家庭系ごみに回っているというケースが多分にあることの影響だと思う。コロナ禍の厳しい状況の中、処理コストが高いなどの理由で小規模事業者等のごみが家庭系ごみに含まれていると考えられるので、その点を認識しておいてほしい。

○委員

乾電池は電器店の回収ボックスに入れているが、ペットボトルの回収拠点に合わせて電池類の回収ボックスを設置できないか。共同利用施設などもペットボトルの回収拠点になっているので、そこで電池類も回収できれば、地域の会合や集まりの際に持参することもできる。

○会長

ペットボトルは、民間事業者も積極的に回収を行うようになっている。

○委員

以前配布されていた雑がみ袋を地域で配布したら好評で、その時は雑がみの分別が地域で浸透した。雑がみ袋の配布はまだ行っているのか。

また、卵パックについて、店頭回収しているスーパーもあれば、安く売るだけでそういった回収を行っていないスーパーもある。スーパーの店頭回収は、行政として何か協力依頼等を行っているのか。

○会長

レジ袋の有料化にこぎつけるまでにも相当の努力をした。その他のトレイなどについては、行政から取り組むように強制することはできないというのが現状である。

○事務局

雑がみ袋については、またご要望があれば対応させていただく。

○委員

先ほどの議論で、回収拠点を増やしてほしいという趣旨の意見があったが、分別回収する品目も増やしてほしいと感じている。リサイクルは単品リサイクルが効率がよいとも聞いている。緩衝材メーカーがいわゆる「プチプチ」とも呼ばれる気泡緩衝材の回収を行い、同製品の原料にしていると聞いたことがある。また歯ブラシを回収して植木鉢などにしているということも聞いている。学校などを回収拠点に組み込んでいけば、効率的に回収ができ、環境学習にもつながるのではないかと思う。すぐには難しいかもしれないが、今後できるとよいと考えている。

○会長

行政としては、すぐに実施するとはなかなか言えないと思うが、参加者意識を大切にされた発言だったかと思う。学校を地域の拠点にするということも、地域社会を形成する上で大切なことであり、コロナ禍で、そういった伝統的な地域社会のあり方への認識も深まったのではないか。あれもこれもというのは難しいかもしれないが、可能性があるときにはまた検討いただきたい。

他に特になければ、次の報告案件についてお願いしたい。

3. 粗大ごみの処理手数料の改定について

○事務局

<資料3に沿って説明>

○委員

実際の処理費用について知らなかったので、あと100円くらい上乗せであってもよいと思った。審議時点で知っていたらそのような額を提案できたかもしれない。処理にこれだけかかっているのであれば、また数年後、値上げを検討しなければならないのではないかと思う。

○委員

今までの金額と比べると実際の処理は3倍くらいかかっていたということなので、よいと思う。

○委員

市民にもこれだけ処理費用が掛かっているということを周知すれば、値上げも仕方がないという理解につながると思う。

○会長

委員からは多くの賛同をいただいたということですのでよろしくお願いしたい。

4. その他

○事務局

今年度の審議会はこれで終了となる。次回については 7 月から 8 月の開催で予定している。また近くなったら日程をご案内する。

○会長

これをもって本日の議論を終了とする。

5. 閉会